

運動部活動の地域移行を  
踏まえた  
JSPO加盟団体主催大会の  
在り方の検討状況  
アンケート  
**(中央競技団体)**

令和5年10月11日  
公益財団法人日本スポーツ協会

## 【目的】

令和4年7月にスポーツ庁から当協会会長に発出された「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言を踏まえた対応について(要請)」における要請内容のうち、JSPPO加盟団体の主催大会における各種見直し等について、令和4年度の実施状況を把握する。

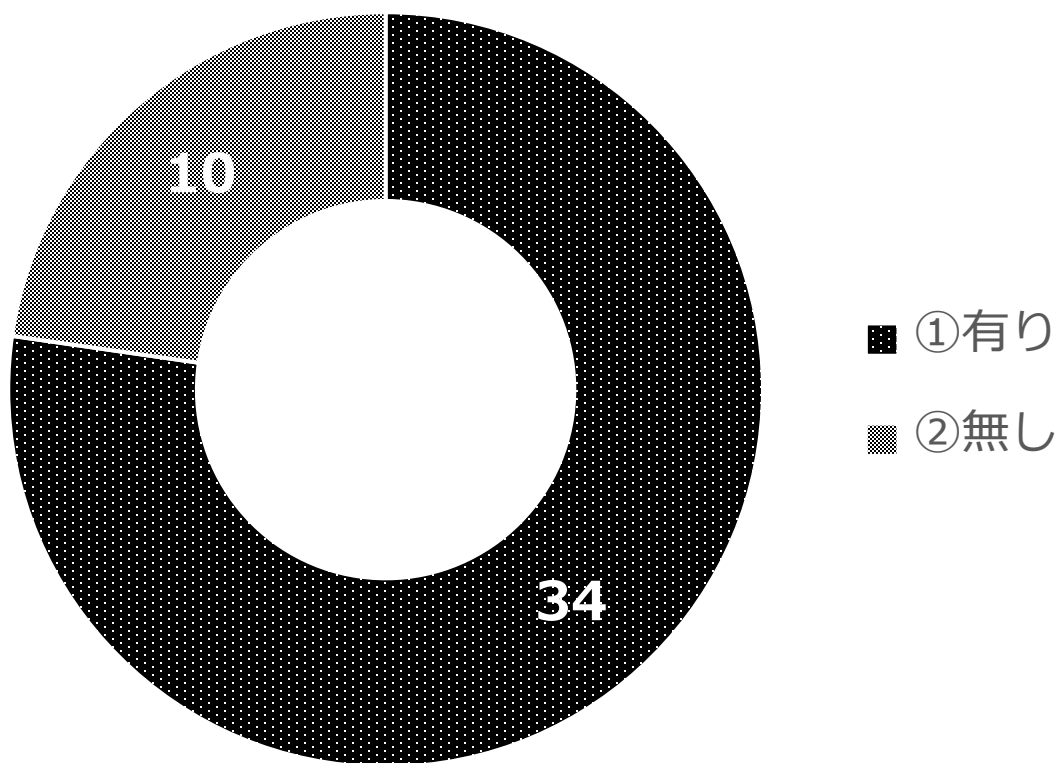
## 【調査期間】

令和4年12月8日～令和5年3月24日

## 【回答数】

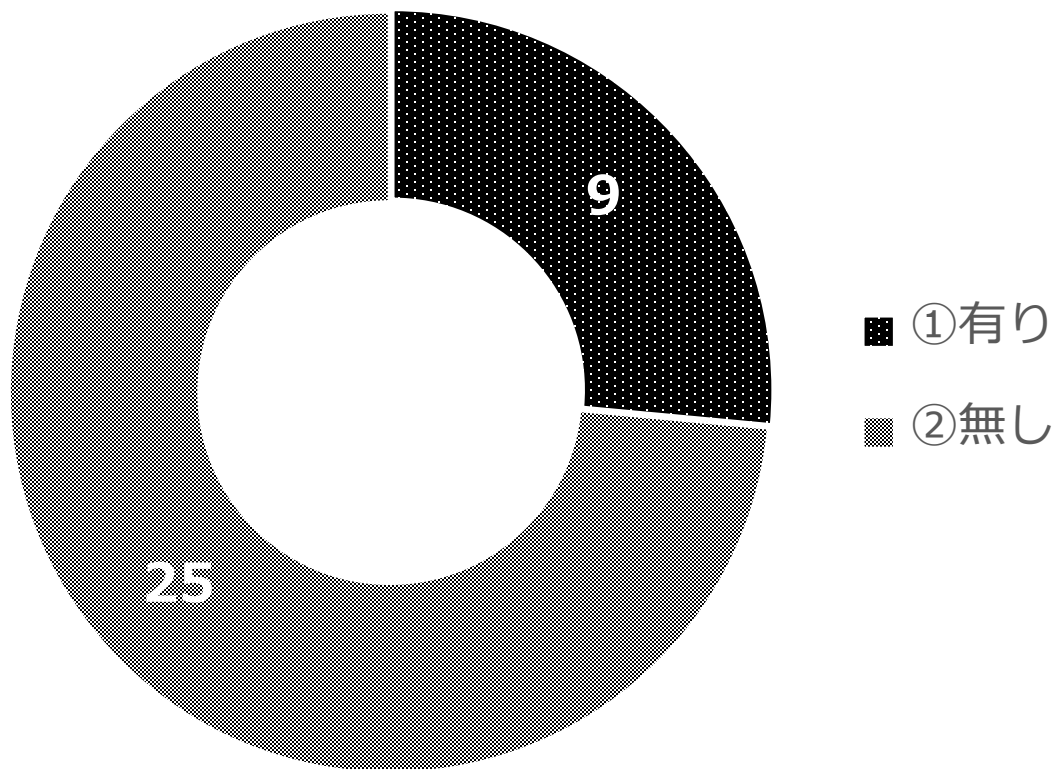
70団体中、44団体が回答。(約63%)

## 1. NF主催の中学生を対象とした大会の有無



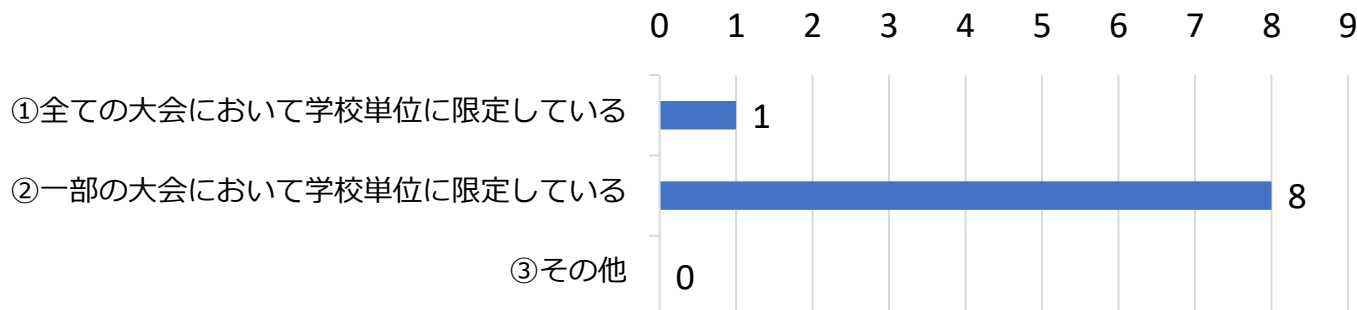
## 2. 参加資格を学校単位に限定している大会の有無

1. NF主催の中学生を対象とした大会の有無の設問にて、「①有り」と回答した34団体が対象



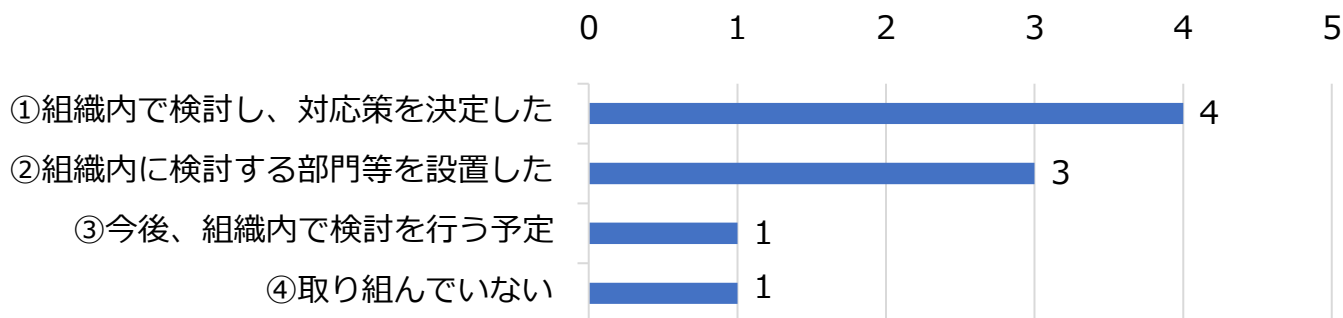
### 3. NF主催大会（中学生対象）の参加資格

2.うち参加資格を学校単位に限定している大会の有無の設問にて、「①有り」と回答した9団体が対象

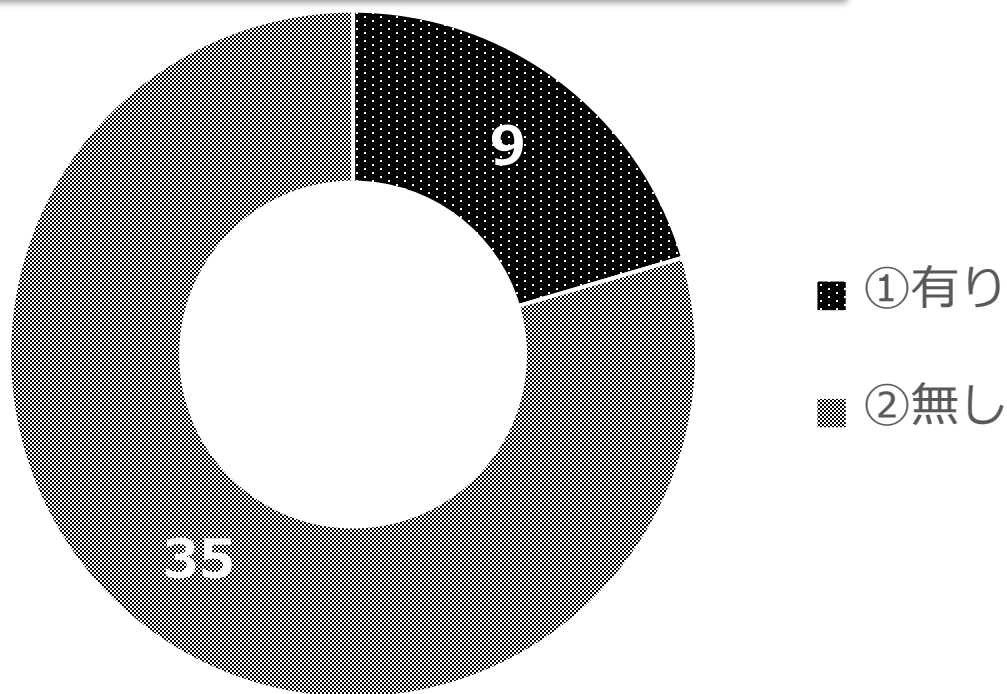


### 4. NF主催大会（中学生対象・学校単位）への地域スポーツ団体等の参加受け入れに関する取組状況

2.うち参加資格を学校単位に限定している大会の有無の設問にて、「①有り」と回答した9団体が対象

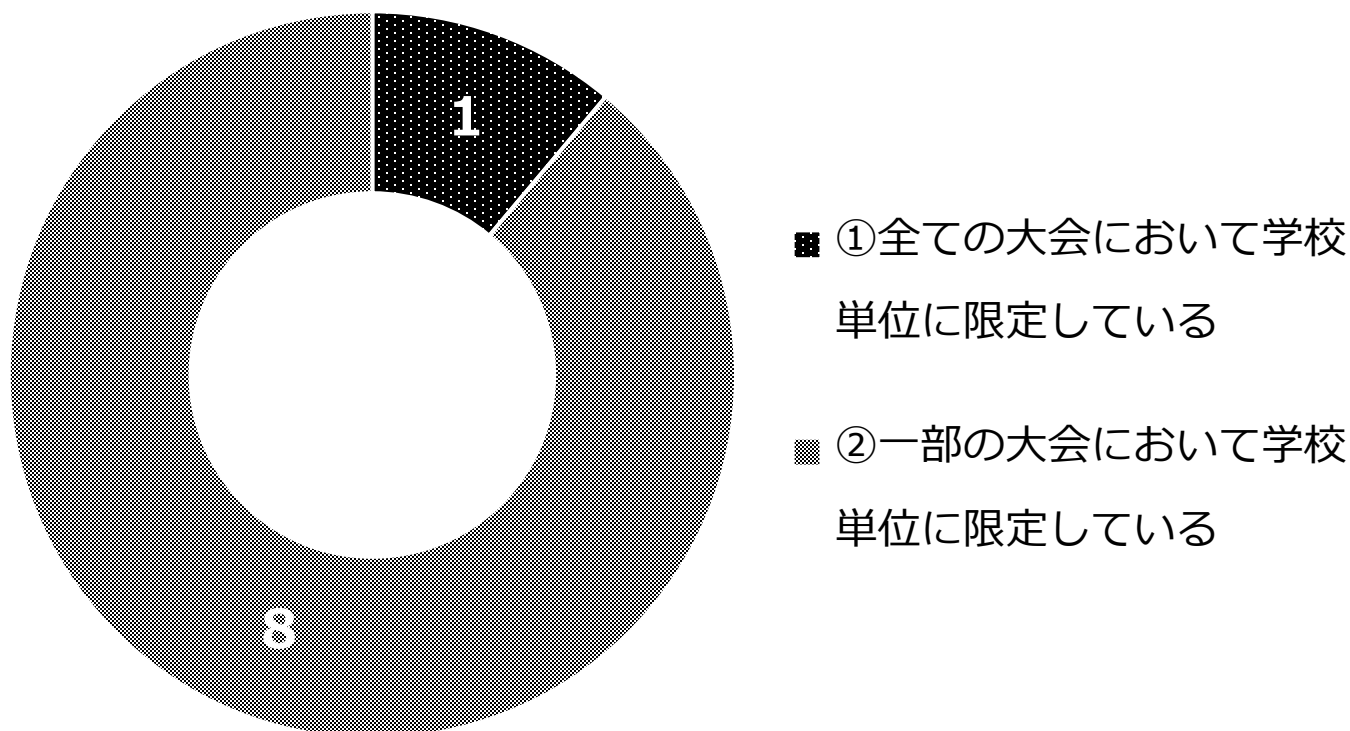


## 5. 傘下・内部組織等が主催する中学生を対象とした大会で参加資格を学校単位に限定している大会の有無



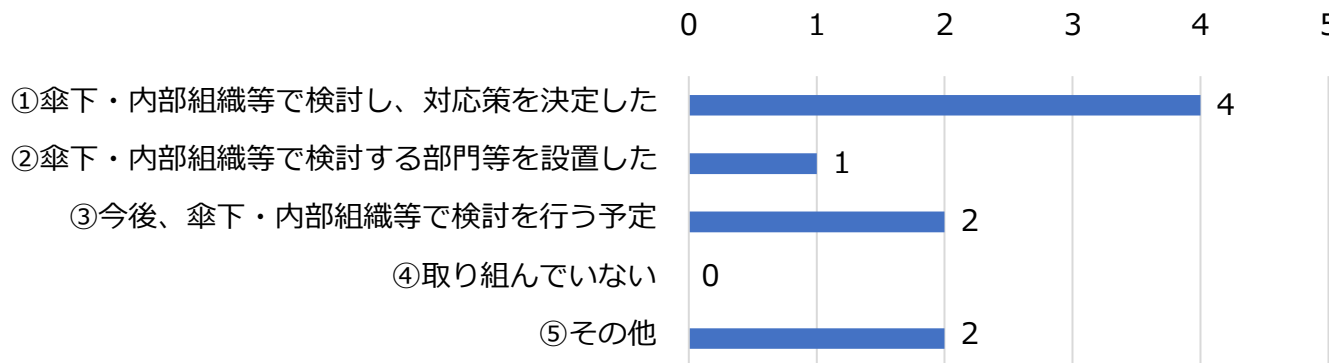
## 6. 傘下・内部組織等主催大会（中学生対象）の参加資格

5.傘下・内部組織等が主催する中学生を対象とした大会で参加資格を学校単位に限定している大会の有無の設問にて、「①有り」と回答した9団体が対象

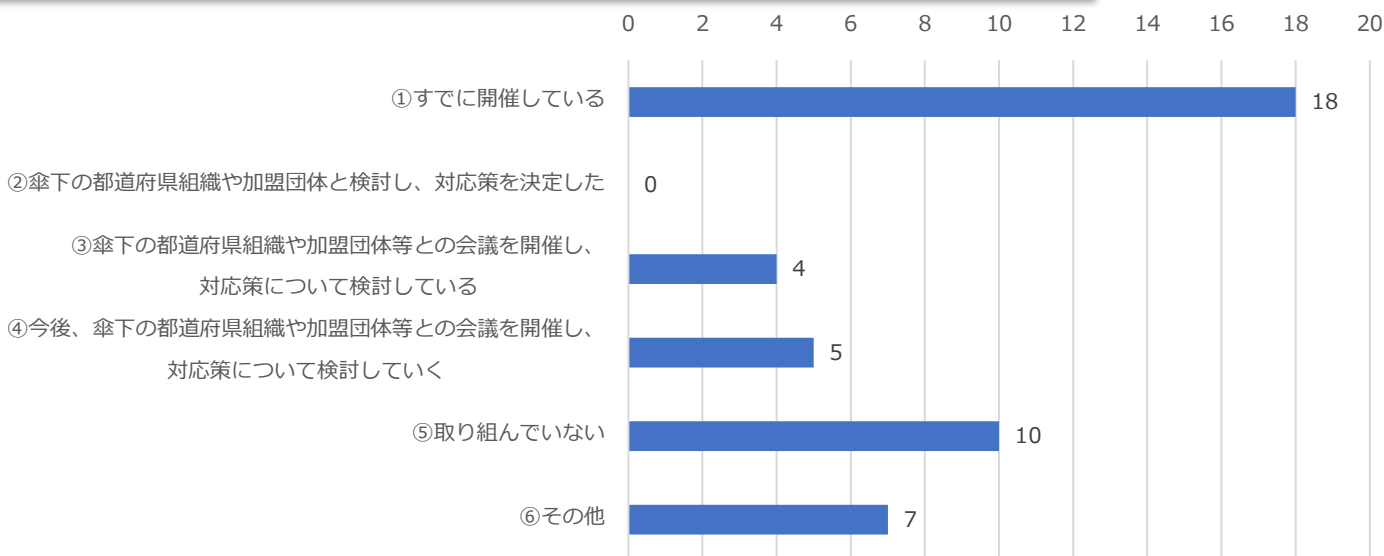


## 7. 傘下・内部組織等主催大会(中学生対象・学校単位)への地域スポーツ団体等の参加受け入れに関する取組状況

5.傘下・内部組織等が主催する中学生を対象とした大会で参加資格を学校単位に限定している大会の有無の設問にて、「④有り」と回答した9団体が対象



## 8. 様々な志向や技能等のレベルごとの大会開催に関する貴団体の取組状況

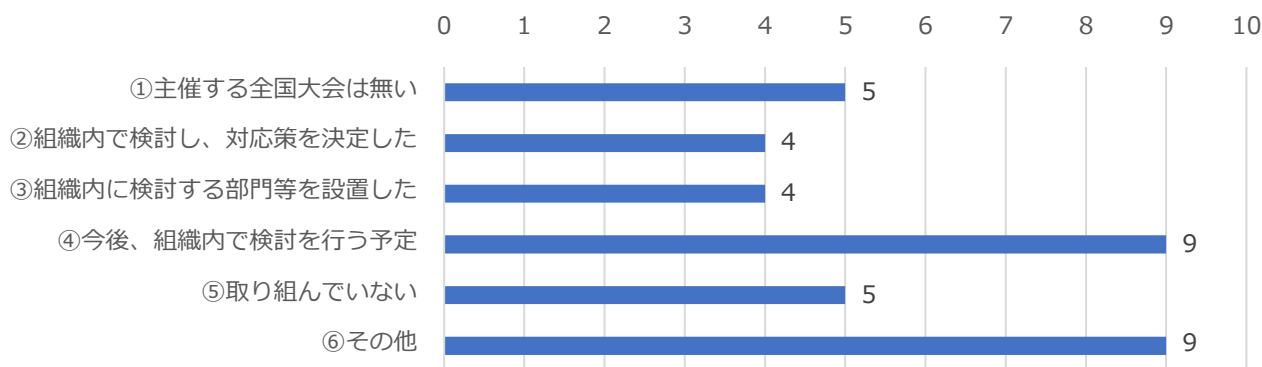


### ◆設問8.に対する回答及び自由記述

回答	自由記述内容
①	当連盟主催大会はほとんどが参加対象を全国上位者に限定しているが、一部の大会は実績による出場資格を定めておらず、レベルを問わず全国から誰でも出場できる。 各都道府県協会主催の大会では従来から、レベルを問わず誰でも出場できる記録会形式の大会も多く、自己記録の更新や、練習した技術を試すなどさまざまな挑戦ができる。
①	ジュニア世代を主な対象としてスタートした大会が、中・高校生年代の初級者を対象に開催されはじめています。今後、勝敗ではなく参加記録を蓄積し、自身の級や段に近い仲間とのプレーを楽しめる環境の整備を進めています。
①	都道府県単位の大会の場合、中学生の競技人口が少数であることから、一般成人も出場する大会に小学・中学・高校生部門も設けて開催している。
③	現状、ニーズ別の競技環境の在り方について検討している。
③	当連盟内に担当委員会を設置し、都道府県連盟と一緒に検討している。
⑤	都道府県連盟で、普及対策の一環として開催あるいはトーナメントに配慮している団体はあると思われるが、中央競技団体では、把握していない（都道府県連盟が自主的に行うものと考えている。）。
⑤	当連盟の競技は中学校の部活動として取り組まれていない。
⑤	該当層の競技者が少なく、全国レベルでは可能だが、都道府県単位で大会を開催するレベルにない。
⑤	中学生選手のない加盟団体が多く、また、中学生がいる加盟団体では小学生や高校生と一緒に参加している。
⑥	競技人口が少ないため中学生のみの大会の開催は不可能。
⑥	中学校カテゴリーでは開催していないが、一般カテゴリーでは開催実績がある。また各支部協会（都道府県協会）では、さまざまな取り組みを行っているが、中央競技団体として全てを管理していない。
⑥	当連盟会員のうち中学生年代はわずかのため、残念ながら志向やレベルごとに大会を開催できる程の人数とはなっていない。

## 9. 中学生を対象とした貴団体主催全国大会の今後の在り方に関する取組状況

任意回答設定のため、回答対象34団体のうち、3団体が未回答/回答非対象10団体のうち、5団体が回答=計36団体回答



回答	自由記述内容
②	スポーツ庁からの学校部活動、及び新たな地域クラブ活動の在り方などに関する総合的なガイドラインを基に検討を行い、2023年度以降は中学生年代に該当する複数の大会を合併させ、1大会として行うことにした。
③	中学生年代を扱う部会において中学校部活動地域移行の検討を進めており、優先順位として大会の在り方が2番目になっているため、具体的検討には至っていない。なお、地域移行は一定の方向性が出たため、4月以降に大会の在り方を主とした部会を開催する予定。
③	既存大会はチャンピオンシップが中心であるが、今後試合方法を検討し、複数回ゲームができるフォーマットなどを検討する予定。別途普及イベントを担当する委員会では、初級者向けの大会開催を推奨しており、今年度より各都道府県での一定数開催を働き掛けている。
⑤	当連盟が開催する中学生対象の全国大会は、都道府県連盟のジュニア強化育成システムに組み入れられているため、運動部活動の地域移行を踏まえての検討はしていない。
⑤	大会の増設は現在のスケジュールでは難しく、また大会運営も現時点で特に問題は生じていないため、特に取り組みは行っていない。
⑥	大会の運営体制については考慮すべきステークホルダーや要素が多く、具体的な検討には入っていない。
⑥	ジュニア・ユース大会の中で中学生の参加はある。予算的に現在成人の大会及び国体公開競技を開催しているが、現状以上の大会を企画することは無理がある。
⑥	弊協会で開催する中学生の全国大会はあるが、学校単位で部活動を行っているところは皆無。地域クラブに加盟し活動することが必然であるが、今後学校単位のクラブが増えるよう競技の普及啓発に努める。
⑥	必要性は感じているが、個人参加が主になっているので、具体的な検討をするまでに至っていない。

## 10. 今後の貴団体主催大会（中学生対象）全体の在り方に関する取組

### 自由記述内容

能力別大会（イベント）に参加しやすい環境の整備を進めている。

夏と春の大会の参加区分が違っている。今後は春の大会に統一するよう検討を始めている。

検討すべき事項と理解をしているが、中央競技団体としても難しい案件として捉えている。

小中学生を対象とした大会開催を各ブロック、各都道府県協会に要望し実施している。  
2024年度から大会の在り方を検討していく。

中学生選手の増加により、団体戦やミックスチームなどの種目を検討する。

大会の運営体制については考慮すべきステークホルダーや要素が多く、具体的な検討には入っていない。

小中学生を対象とした大会の中で中学生の参加はあるが、予算的に現状以上の大会を企画することは無理がある。

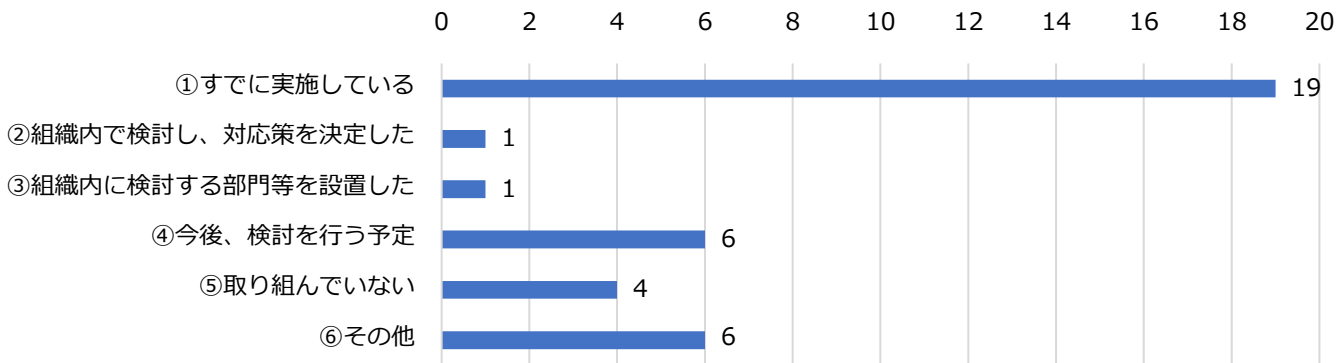
弊協会で開催する中学生の全国大会はあるが、学校単位で部活動を行っているところは皆無。地域クラブに加盟し活動することが必然であるが、今後学校単位のクラブが増えるよう競技の普及啓発に努める。

必要性は感じているが、個人参加が主になっているので、具体的な検討をするまでに至っていない。



# 11. 貴団体主催大会（中学生対象）の会場や開催時期等に関する取組状況

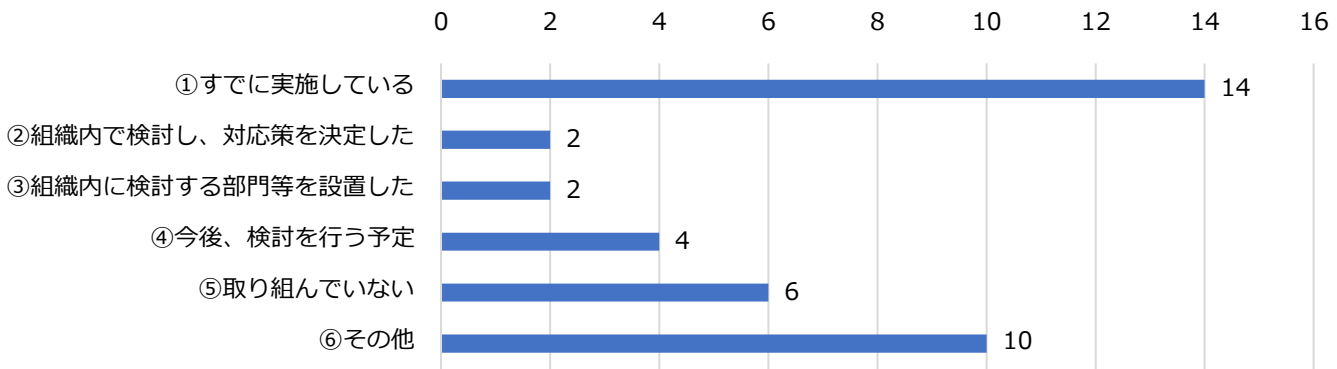
任意回答設定のため、回答非対象10団体のうち、4団体が回答=計38団体回答



回答	自由記述内容
①	暑熱期間を避けた大会日程としており、夏季に行う全中やクラブチームの全国大会については、冷涼地での開催を目指し調整を行っている。また、熱中症ガイドラインを定め、WBGT値によって競技中の飲水や体を冷やすための時間を設けたり、試合実施判断基準を設けている。
①	国際基準に準じ、危険を伴う競技ではヘルメット着用や装具の安全性を求めることなどを義務付けている。
①	中学生の受験活動、また学校行事（文化祭、体育祭）を考慮し、長期休暇である夏季休暇中に行っている。暑さ対策は、国技館を使用しているため空調は、完備されている。熱中症対策は、監督会議での注意、プログラムへの注意喚起掲載、放送での注意喚起等を行っている。
①	屋外競技の為、夏季を避けたいが、夏休み中の開催が現実的であり、開催場所及び暑さ対策を講じている。
①	夏季の全国大会においては、冷房施設の体育館は開催条件上必須となっている。
①	WBGT値や気温値によるヒートルールを新設した。
①	夏季競技会においては空調が整備された体育館にて実施すること（全国大会）、熱中症予防啓発についてHPに掲載している。
①	大会開催時期を、12月として暑さ対策に考慮している。
①	屋外競技なので、必ずテントを設置しており、設置数は選手コーチ、監督が無理なく利用できる数を用意している。
①	夏季休業期間中の大会スケジュールを調整し、過密なスケジュール解消を図っている。また、医事委員会を中心に暑熱下に開催される競技会でのルール運用ガイドブックを作成し、WGTBと選手の症状などを点数化することで主催者が安全に大会を運営するための基準を作成した。昨年からは、主に感染症対策として運用開始した健康管理システムに熱中症予防のための健康チェック項目を追加し、入力を必須とすることで、大会ドクター、トレーナーと情報を共有し試合前から選手に声かけや、事前の体調を把握した上でのメディカルサポートにつなげてきた。今年度は、システムを改修し熱中症対策を中心に運用すると共に、その他の外傷・障害防止に繋がる健康情報管理システムとして運用を検討する。併せて、熱中症・感染症を含めた総合的な安心・安全な大会開催のためのガイドライン整備を予定している。WGTBをはじめとする基準に基づき、夏季は日中の暑熱時間帯の開催を制限し、早朝、夕方夜間の開催を検討するなどの指針を提示する予定でプロジェクトチームを立ち上げ、検討を開始した。
④	開催日程については、やはり夏季休業中が一番対応しやすい。よって、時間帯の検討や試合数の検討を行う予定である。
⑥	担当部会で検討を行う予定であるが、医科学委員会、アスリート委員会においても一部意見があった。具体的には、小学生を対象とする当連盟主催大会において、WBGT指数を参考に夏季の12時～16時までには試合（全国大会のみ）を行わない取り組みを開始したが、中学生対象大会での導入検討を行う。
⑥	屋外競技であり、主シーズンは夏季である。空調の整った会場確保はしていない。しかし熱中症対策や屋外競技の暑熱対策などを徹底して行っている。救護室などは空調設備の整った部屋を用意して対応している。

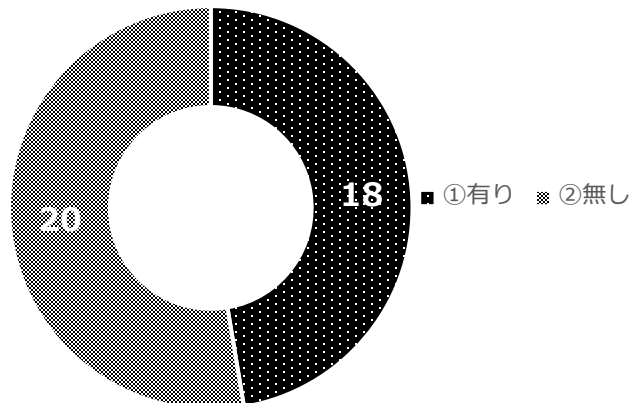
## 12. 貴団体主催大会（中学校対象）における天候不順等による大会日程変更に関する取組状況

任意回答設定のため、回答非対象10団体のうち、4団体が回答=計38団体回答



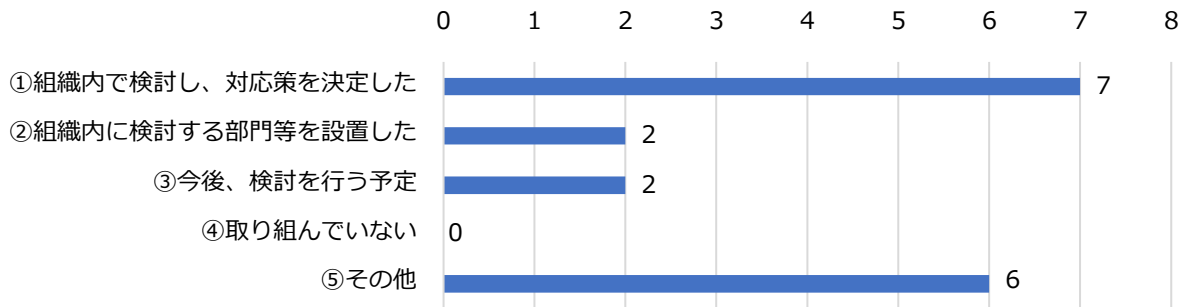
回答	自由記述内容
①	リーグ戦をトーナメントに変更し試合数を削減、あるいは、マッチにおけるゲーム数の短縮などを行っている。
①	屋外競技であり、従来より天候不順の場合の予備日の設定や、大会が終了しない場合の打ち切りルールなどは整備されている。ランキングなどが整備されていることから過密な中で無理な大会開催は避けることができる。
①	屋外競技のため、大会開催にあたっては、常に天候を見極めて実施している。台風および荒天時は競技日程の変更等、競技運営委員会が迅速に対応し、生徒の体調管理・安心安全な大会運営に取り組んでいる。
②	日程的には、3日間競技としているが、最低消化ホールの設定を設け、それが消化できなければ、当年の競技は不成立としている。

## 13. 貴団体主催大会（中学生対象）における外部指導者による引率規定の有無



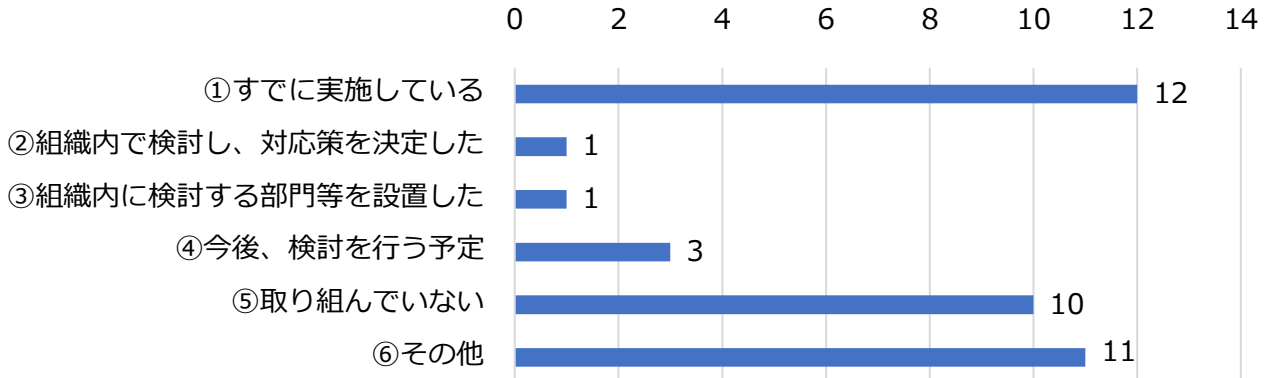
## 14. 貴団体主催大会（中学生対象）における外部指導者の引率規程の見直し

13. 貴団体主催大会（中学生対象）における外部指導者による引率規定の有無の設問にて、「①有り」と回答した17団体が対象



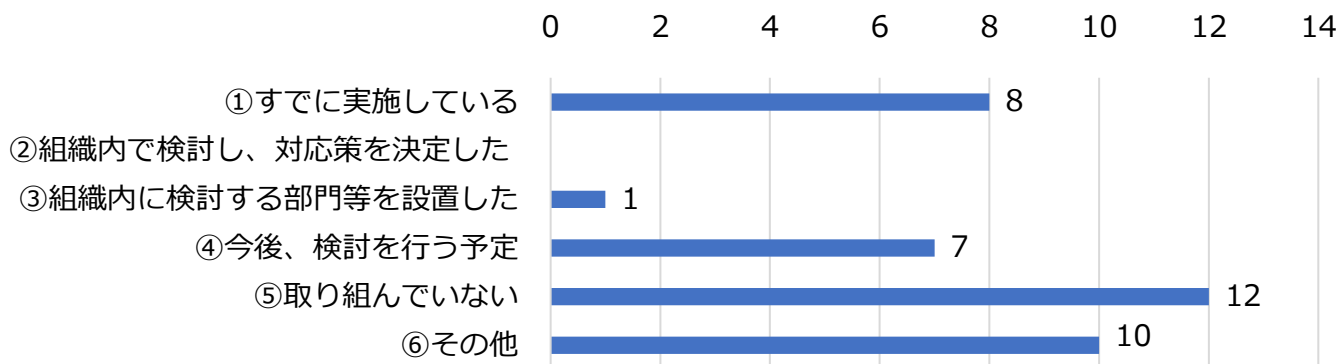
## 15. 貴団体主催大会（中学生対象）における運営体制の見直しに関する取組状況

任意回答設定のため、回答非対象10団体のうち、4団体が回答=計38団体回答



## 16. 貴団体主催大会（中学生対象）または傘下・内部組織等主催大会（中学生対象）におけるスポーツボランティアの活用に関する取組状況

任意回答設定のため、回答非対象10団体のうち、4団体が回答=計38団体回答



回答	自由記述内容
①	以前より、日本スポーツボランティアネットワーク、ボランティア団体と連携して大会運営を行っている。
①	地域における「シルバー人材活用センター」等を利用している。
①	開催地の県・市町村教育委員会、スポーツ協会を中心に連絡をとり、競技運営以外の部分において協力を頂いている。昨年群馬県高崎市での開催においては、群馬県、群馬県教育委員会、群馬県中学校体育連盟、高崎市、高崎市教育委員会、高崎市スポーツ協会に加え、高崎財団に選手、関係者向け各種サービスにご協力頂き、各種メディアにも広報面で御協力頂いていた。
⑤	スポーツボランティアについて十分認識がない。
⑤	今のところ、スポーツボランティアを活用せずに運営できている。
⑤	現状は、既存の競技団体役員その他、地域移行後も指導を希望する教員を対象に運営委員登用を図ることを前提としており、スポーツボランティアの活用までの検討を行う体制になっていない。
⑤	運営は、当連盟内でジュニアカップ大会を所掌するジュニア育成部と開催地の都道府県連盟の協力により実施しており、特にスポーツボランティアの必要性は感じていない。
⑤	現在は当連盟で調整した人員で大会が実施できている。競技特性上、ルールに精通していなければならない業務が多いため、ボランティアに任せる業務が少ない。
⑥	大会当日の業務は競技の専門性が高いものが大半のため、ボランティアの活用事例はほとんどないと思われる。当連盟主催大会も開催地の協会に運営を委ねることが基本のため同様である。 誰でも参加できるフェスティバルイベントを開催した際は、非公認種目の運営や観客案内、関連イベントなどの担当として、初めてスポーツボランティアを活用し、工夫をすれば競技大会にもボランティアに支えていただける部分が少ないこともわかった。この経験を踏まえ、ボランティア活用の拡大を検討したい。 ただ、ボランティアを活用するには、運営側にもボランティアを統括するノウハウや人材が必要なこともわかった。組織の体制が脆弱な各県協会には、そこまでできる余地があるかどうか、という問題もあると思う。
⑥	中学生の大会で、スポーツボランティアをお願いするような規模の大会はない。
⑥	中学生大会では運営に関わっていないが、令和4年度から実施した新しい事業では初の試みとしてボランティアの協力を得て実施した。